

令和7年8月21日

普通期稲作情報 第4号

J A む な か た
北筑前普及指導センター

◎気象概況及び生育概況（アメダス宗像より）

7月は、平年と比較して平均気温が2.3℃高く、降水量が26%と少なく、日照時間が178%と多い気象状況でした。水稻の生育状況は、十分な水が確保されたほ場では、草丈がやや高く、分けつも多い傾向が見られます。

一方、一部地域では、8月9日から11日にかけての大雨により、農地の冠水や土砂流入がみられました。

気象庁が8月9日に発表した1か月予報によると、今後も平均気温は高く推移すると予想されています。このため、斑点米カメムシ類や紋枯病の発生に注意し、適切な出穂期防除を実施してください。

下表を参考に次のことに留意して農作業を行ってください。

◎品種別出穂期（6月20日頃田植え・平坦地）

※出穂期：ほ場内の5割程度の茎で穂先が出た状態の日

★ヒノヒカリ . . . 8月26日頃（平年並み）

★ツクシホマレ . . . 8月30日頃（平年並み）

1. 水管理

穂ばらみ期～乳熟期は最も水を必要とする時期なので、湛水状態とします。

乳熟期以降は、根を健全に保つため、落水期（収穫5～7日前）まで間断かん水を行ってください。

2. 病虫害防除

【斑点米カメムシ類】

特にイネカメムシには注意が必要です。発生が多いほ場では、出穂期と出穂期の14日後の2回防除を行きましょう。

※斑点米カメムシ類は、出穂直前に畔草刈りをすると、畦草に生息していたカメムシを本田へ追いやることになり逆効果となりますので、早めの畔草刈りを心掛けましょう。

【トビイロウンカ】

現在のところ発生量は平年より少ない状況です。トビイロウンカは秋口から急に増殖することがあるので、今後もほ場での発生状況の把握に努め、適期防除を行きましょう。

【いもち病】

一部のほ場で、葉いもちの発生が見られます。発生を確認したほ場では、早急に補正防除を行ってください。

◎基幹防除【出穂期防除】

剤型	薬剤名	対象病害虫	使用時期	散布量
粉剤	ダブルカットバリダ トレボン粉剤 3DL	いもち病、紋枯病、 カメムシ類、ウンカ類	穂揃い期まで	3~4kg /10a
液剤	ダブルカットバリダ フロアブル	いもち病、紋枯病	穂揃い期まで	1000 倍
	エクシード フロアブル	ウンカ類、カメムシ類	収穫 7 日前まで	2000 倍
粒剤	ゴウケツモンスター 粒剤	いもち病、紋枯病、 稲こうじ病、 カメムシ類、ウンカ類	出穂 5 日前まで 収穫 45 日前まで	3 kg/10a

※出穂期に穂いもち、紋枯病、トビイロウンカ、斑点米カメムシ類に対して、
基幹防除を行って下さい。

◎補正防除

剤型	薬剤名	対象病害虫	使用時期	散布量
粉剤	スタークル粉剤DL	ウンカ類、 カメムシ類	収穫 7 日前まで	3kg/10a
液剤	スタークル液剤10			1000 倍
豆粒剤	スタークル豆つぶ			250g/10a

※スタークル剤とエクシード剤は在庫が品薄です。欠品の場合は、営農アドバイザーにご相談ください。

※防除にあたっては、ミツバチへの影響を十分考慮して行ってください。

※出穂期防除後、ほ場で虫の発生状況を確認し補正防除をおこなって下さい。

【トビイロウンカ】



【イネカメムシ】



★農薬を正しく安全に使用しましょう！！

- ① 散布前に必ずラベルを確認
- ② 散布時には近隣作物や住宅街への飛散防止を徹底
- ③ 水田では止水期間（1週間程度）を遵守
- ④ 散布後は必ず散布器具（タンク、ホース等）を洗浄
- ⑤ 防除履歴の正確な記帳